

子どもの声・姿・意識 (総合的な学習の時間→総合)	活動の展開	教師の関わり(手立て)	単元の評価規準 ○知識・理解 ○思考・判断・表現 ●主体的に学習に取り組む態度 <キャリア・未来デザイン教育の視点> [探究的な学びの視点]
「1年間を通して扱う材を決め、材について詳しく知る」(8)			
	○昨年度の総合や桜町フェスティバルの振り返りをする。(1)	・「何に取り組んだか」「どんな力が身に付いたか」「今年どんな力を身に付けたいか」の観点を示す。	
<p>【昨年度の振り返りでの児童の声】</p> <p>(身に付いた力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでやりたいことを考え、自分たちの力で進められた ・農家さんとの関わりや桜まつりの出店など、学校の外に出て学びを広げることができた ・役割を分担して、協力して進めることができた ・意見が合わないときも、話し合いを通して、お互いの気持ちを聞きながらできた ・もっと美味しくするためにはどうすればいいか、何度も試していく中で、自分たちなりのゴールを見付けることができた ・桜町フェスティバルでは、桜町小の人々に、自分たちがやってきたことを堂々と発表することができて、自信が付いた <p>(身に付けたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが納得するまでたくさん話し合いながら進めたい ・楽しく、安全に活動したい ・いろいろな人と協力したい ・高学年になったから、壮大なスケールの活動にチャレンジしたい 			
<p>・「自然」って聞いたらどんなイメージ？ →植物とか生き物とか…</p> <p>・今の時代、便利なものがたくさんあるけど、昔の人は自然と関わりながら工夫して生活してきたんだよね。</p> <p>・夏休みのキャンプやボーイスカウトなどで、自然を使って生活したことがあって、とても楽しかったよ。</p> <p>・私たちも身近な自然を使って、衣食住を体験してみたい。</p> <p>・衣食住なら、今年から始まる家庭科の学習ともつながりそう。</p>	<p>○追究していく材(竹)について、思いを膨らませる。 竹の歴史や活用方法などを調べていく中で、今年度はどんな活動ができそうか考える。(2)</p> <p>○クラスでどのように取り組んでいけそうか考えつつ、つくれそうなものをピックアップする。(2)</p> <p>○今年度は竹と関連付けてどんな活動ができるかを考える。(3)</p>	<p>・一人ひとりの意見を聞くために、ロイロノートを活用してアイデアを出し合うようにする。</p> <p>・他教科との結び付きが可能かどうか、児童が考えられるよう、全教科の教科書を参考にする。</p> <p>・学習の広がりを考えるために、ウェビングマップで材について関係のあることを書き出していく。</p> <p>・相手意識につながるよう「つくったものを誰に紹介したい？体験してほしい？」と聞く。</p>	<p>[1:課題を見出し、把握している] <③課題対応能力> <④キャリアプランニング能力></p> <p>○竹には様々な種類や用途があり、和を感じることのできるすてきな文化であることを理解している。 <②自己理解・自己管理能力></p>
<p>「自分の追究したいテーマを調べたり試したりしながら繰り返し挑戦する」(17)</p> <p>一学期</p> <p>・地域に「原の竹山」があるから、竹なら私たちでも手に入れやすそう。でも竹ってどうやって切るんだろう？ →3年生のピザ作りで、薪を割る時に鉈を使ったよ。きっと同じようにできるんじゃないかな。</p> <p>・まずは「食」に関することをやってみたい。 ・日本人の主食といえば「米」。竹で米を炊いてみよう。 ・うまく竹が割れると気持ちがいいね。 ・のこぎりと鉈を上手に使わないと、穴が開かず飯盒ができるない。思っていたより難しい。 ・苦労して作った分、炊き上がったご飯が最高においしい。 ・竹の切り方、割り方を知ったから、今度はもっと大きなものを作ってみたい！ ・グループの人が乗れる大きいかだを造ろう。 ・紐の縛り方には、いろいろな方法があるんだね。 ・あんなに大きくて重い竹が浮くなんて不思議だね。 ・いかだの造り方を生かして、いろいろな船を造ってみたい。 ・カーブしているような船を造るためにはどうすればいいのかな？</p> <p>○テーマを決める。(1) ○竹でどのように探究するかクラスで考える。(2) →やりたいことを一つに絞って、全員で探究する。 やりたいことをグループごとに分けて探究する。など</p> <p>○竹飯盒を作つて、米を炊く。(5) 限られた材料の中で、竹箸や食器など自分が作りたいものを作る方法を考える。</p> <p>○竹いかだを造る。(5) グループごとに、形を工夫していかだの形を造る。 水に浮かべたり、乗つてみたりすることで、強度を確かめたり、紐の結び方を改良したりする。</p> <p>○いかだ造りで学んだ紐の縛り方を生かして、船造りをする。→どんな船が造れそうかな？樽船、カヌー、壁のある四角い船、など。(4)</p> <p>・テーマを考えるにあたり、1年間の見通しをもてるよう竹についてやってみたいこと、挑戦したいこと、ワクワクすることなどを聞く。</p> <p>・安全管理を徹底して行う。児童もその意識を強くもつよう促す。</p> <p>・竹の纖維や構造などに注目するよう促し、どの道具を使って、どの向きに切る(割る)とよいか、自分たちで考えられるようにする。</p> <p>・児童が自分の成長を感じられるように、写真や動画で記録をとておく。</p>			
<p>○竹に対して目的をもって行うことから、課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>○竹の魅力発信を目指して必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>[1:課題を見出し、把握している] [2:課題解決の方法を考えている] [3:協働して学んでいる] <① 人間関係形成・社会形成能力></p> <p>●自己の取組を振り返ることを通して、さらなる竹の汎用性に気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>○竹の魅力発信を目指して収集した情報を、取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>[4:学びを振り返り、次につなげている] <①人間関係形成・社会形成能力> <③課題対応能力> <②自己理解・自己管理能力> <④キャリアプランニング能力></p>			

「竹に関する探究活動を振り返り、他教科へ関連付けて広げる」(17)

二
学
期

- ・次は「住」作りにチャレンジしよう。
- ・竹で大きな家を造ってみたい。竹で憩いの場を造ってみようよ。
- ・住む場所だけじゃなくて、その場をより楽しく、より美しくする物も作りたい。
- ・夏休みに竹で作られたインテリア雑貨を見たよ。
- ・昔遊びができるおもちゃ作りもしてみたい。
- ・竹がたくさん必要だから、「原の竹山」の三田さんに相談してみよう。
- ・屋上に、竹を使った憩いの広場を再現してみよう。自分たちだけでなく、下級生も招待してあげたい。
- ・でもたくさんの人が来る場所にするためには、絶対に安全な造りにしないといけないね。
- ・特別な紐や縛り方があるのか、しっかりと調べてみよう。

夏休み 身近にある竹製品を探してみよう
（「私も作ってみたい！」を探し、2学期に共有する）

- 「住環境」につながる探究について、どんなことができそうかアイデアを出し合う。(1)
- 出したアイデアを絞る。(1)
- 屋上に「バンブーパーク」をつくる。(10)
→小屋、インテリア、遊び道具など
- つくったものを、どんな人に見せたいか、体験してもらいたいかなど、相手意識をもって内容を再考する。(5)

各教科での学習との結びつき

国語:目的に応じて引用する 算数:単位量あたりの計算 理科:植物の生長 社会:森林とともに生きる
社会:環境をともに守る 家庭科:食材の扱い・料理の基本 書写:招待状・案内表示 外国語:日本文化の伝達
図工:デザイン など

- ・今までの学習を生かせるように、学習の軌跡を残しておき、振り返りしやすいようにする。
- ・意見が反映されやすいように小グループでの活動を促す。
- ・1学期の飯盒作りやいかだ作りと同様に、使う道具を整えておくことで、効率よく素早く活動できるよう環境を整える。
- ・「原の竹山」の管理者と連携し、竹林を見学したり、竹を切らせていただいたらできるようにする。
- ・他教科(専科等)とのカリキュラム・マネジメントを行う。

[1:課題を見出し、把握している]
◎竹を使った「住環境」の創造を、目的をもって行うことから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。

◎竹を使った住環境の魅力発信を目指して必要な情報を、手段を選択して収集している。

[2:課題解決の方法を考えている]

●課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、竹を使った住環境づくりのためにできることを積極的に考え、粘り強く取り組もうとしている。

[3:協働して学んでいる]

<③課題対応能力><②自己理解・自己管理能力>
○活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。

[4:学びを振り返り、次につなげている]

<④キャリアプランニング能力>

<②自己理解・自己管理能力>

三
学
期

「1年間の成果となる竹に関する活動を地域や保護者に披露する」(10)

- ・学習発表会で竹の魅力を伝えたい！
- ・私たちが作った「竹との暮らし」を見てほしい。
- ・全校の人に、自分たちが作ったものを体験してほしい。
- ・竹をはじめ、自然と関わることの素晴らしさ、楽しさを感じてほしい。
- ・自分たちの成長を、関わってきた方々に見てほしい。
- ・自分たちの学びを伝えるイベントを開きたい。
(学校、保護者地域など)
- ・余った、使い切れなかった竹はどうする?
→ごみにはしたくない。自然に還そう。

- 竹の魅力をまとめ。(2)
- 学習発表会等で竹や竹を使った「暮らし」を紹介する。(5)
- 1年間の成果となる活動を、地域の方や保護者に披露する。(2)
- 今年度の成果と課題をまとめ。(1)

- ・今までの活動の写真をもとに、自分たちにしかできない魅力発信を考えよう促す。
- ・広めたい、伝えたいという子どもの思いは、他教科とのつながりで、より効果的に発信できるようにする。掲示物や個人の記録を活用し、今までの探究活動での成長を実感できるよう促す。

- ・今までの学習の軌跡について、児童が自分の成長を、実感をもって話すことができるようたくさん記録をとっておく。
- ・竹を通して学んだことを6年生につなげるためにキャリア・パスポートを活用する。

[1:課題を見出し、把握している]
[2:課題解決の方法を考えている]

○活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。

●竹の魅力を発信するために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。

[3:協働して学んでいる]

○伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、竹の魅力を適切な方法で表現している。

[4:学びを振り返り、次につなげている]

<④キャリアプランニング能力>

<②自己理解・自己管理能力>

材（竹）のもつ価値

- ・子どもたちの身の回り(駒沢公園、深沢の杜緑地など)に竹林があり、身近な自然であるものの、触ったり、加工したりする機会は意外と少ないため、やってみたいという意欲がわきやすい。
- ・竹特有の香りやしなやかさが生み出す「和」の雰囲気により、日本のよさを感じながら探究活動を進めることができる。
- ・調理器具、食器、家具、日用品、インテリア等、可能な探究活動の幅が広い。
- ・春夏秋冬それぞれの時期(飯盒炊爨、船を水に浮かべる、屋外で憩いの場作り、どんど焼き、など)で季節を感じられる活動ができる。

材（竹）に寄せる子どもたちの思いや願い

- ☆自分たちよりもはるかに大きい竹がたくさん生えている場所に行き、実際に見たり、触ったりして自然を感じたいと考えている。
- ☆鉈やのこぎりなどを使い、自分たちのイメージしたものを自由につくってみたいと願っている。
- ☆紐を使った竹の固定の仕方、竹で円いものを作る方法など、知らないことを調べて、試してみたいと願っている。
- ★竹を使って「バンブーパーク」をつくり、自分たちで遊んだり、他学年の子どもを招待したりすることで、屋上を皆の憩いの場にしたい。
- ☆つくったものを使って「暮らしの体験」(飯盒炊爨、船乗り、憩いの場で過ごす、など)をしてみたいと思っている。
- ☆自分がつくったもの・空間を、地域や保護者、友達に紹介し、楽しんでほしいと願っている。

★…子どもたちの深層にあると予想される求め・思い・願い